

『北栄ふるさとかるた』の取り組みについて（北栄町中央公民館）

～「あきらめず 北栄町民 ねばりっ子」～

北栄町中央公民館では、北栄町の歴史・文化・自然・産業・観光などの魅力を「かるた」にして、遊び楽しみながら学ぶことでふるさとへの誇りや愛着心を育み、北栄町の魅力を発見・発信することを目的に、令和3年3月に「北栄ふるさとかるた」を作りました。



絵札と読み札それぞれ44枚がセットとなっており、読み札は「北栄町らしさ」をキーワードに、町内の小・中・高校生、北栄川柳教室、北栄俳句会の方々に作っていただき、絵札は全て小学生、鳥取中央育英高生の方々の作品です。町内多くの方と一緒に作りあげたかるたができました。

<取組の経緯>

北栄町は、合併15年が経過したところですが、町内の歴史、文化、自然や観光など魅力ある素材が多数あるにもかかわらず十分に認知されてなく、そのためふるさと北栄町への誇りや愛着心が十分に育っていないのではないかとの思いがありました。

そこで、平成29年9月に地域副読本「わたしたちの北栄町～まちの姿～」、令和2年3月に「わたしたちの北栄町～歴史・人物編～」を作成し、小学校の授業に活用してきました。

このふるさとかるたはその総仕上げとして、子どもから大人まで様々な年代の方にいろいろな活動の中で活用していただき、北栄町の魅力を知り、愛着をもっていただき、ふるさとのすばらしさを知っていただくことを目的に、作成に着手しました。

<作成の経過>

作成にあたり、まずは読み札を作成しました。「あ」から「わ」で始まる文章に、「大栄すいか」「前田寛治」といった北栄町の歴史、文化、人物、史跡などの「魅力キーワード」を盛り込んだ川柳・俳句風の読み札を小中高校生から募集したところ、124名から223作品が寄せられました。編集委員に選考していただき、決まらなかった文字は町内で活動されている川柳、俳句教室のみなさんにもご協力いただき、読み札44句を決定することが出来ました。

絵札については全て小学生、地元の鳥取中央育英高生による手書きの作品です。当初、高齢者学級の絵手紙教室や町内で活動されている絵画教室等の方々にお願いし、大人が主体となって作成する予定でしたが、読み札の作成に協力した

小学校や高校から、思いがけず絵札作成についても協力する旨連絡がありました。「大人」が一方的に作るかるたよりも自分たちで作成したかるたのほうが、より興味をもって使ってくれると思い、お願いしていた絵手紙教室等に断りを入れ、小学生、高校生にお願いできたのは嬉しい誤算でした。

このようにこのふるさとかるたは、プロがつくった洗練されたかるたではありませんが、子どもたちや地域の方々といった多くの町民の手によって作られた、温かみのある唯一無二のかるたとなっており、そこに大きな意義があると感じています。



北条小学校でのお披露目式の様子

<今後の活用>

こうして出来上がったふるさとかるたは、学校、図書館、放課後児童クラブ、いきいきサロンを行われる各自治会、町内のデイサービス施設等に配付し、中央公民館・中央公民館大栄分館では貸し出しをおこなっています。

また、高齢者学級（シニアクラブ）、青少年講座（おもしろまなびタイム）といった公民館主催事業のほか、図書館での読み聞かせ教室、ほくほくプラザ（人権文化センター）でのおしゃべりサロンにも活用しています。今後も様々な社会教育の場を通じて多くの町民に手に取っていただき、かるた遊びを通して、北栄町の魅力を再発見していただく取り組みを進めていこうと考えています。

